

平成30年度 東京都立蒲田高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導においては、「社会人としての教養」と「学力スタンダード」により、学力を確実に定着させるとともに、基礎学力の一層の「定着・伸長・発展」を図ることに取り組んだ。アクティブラーニング推進校として、公開授業研究会を開催するとともに、授業を主体的・対話的かつ深い学びに改善することにより、生徒の学ぶ意欲を育成するとともにわかる喜びを実感させる授業を実践した。

一学年での一部30分短時間集中授業と反復学習を活用して効果的に学習意欲を引き出し、ICT機器を積極的に活用するなど、視覚的な学習指導を推進した。また、小テストをきめ細かく実施し、評価においては、テストによって確認できる成果としての知識量や理解度のみならず、学習の過程を重視した評価を行った。

イ 進路指導においては、3年間を見通した進路指導を、進路指導部を中心として各学年と連携して進め、社会的・職業的自立支援教育プログラムの活用やNPO等との連携を含め、あらゆる場面を活用して、生徒の個性・特性・適性・能力を把握し、その伸長に努め、生徒の多様な進路希望の実現を重視した指導を行った。

学力診断テスト等、外部模試により生徒の学力を把握するとともに、生徒にフィードバックして家庭学習の動機づけとしても活用を図った。

ウ 生活指導においては、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」指導を基本に、社会人として身に付けさせる規律・規範の目標について取組を推進し、「授業開始のチャイムとともに授業を開始し、生徒に「時間を守る」意識を育成する」ことの大切さを指導してきた。

人権教育を基軸とした生活指導を推進し、特にいじめの未然防止に努め、また、校内美化・校内リサイクル運動の学校全体での取組を委員会活動を通して実践した。

エ 特別活動・部活動においては、東京都教育委員会「パワーアップスクール」指定制度を活用し、生徒の体力・気力を向上させるとともに、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感等を育成することにより、特別活動の充実を重視した。また、部活動指導を通して生活指導・進路指導・地域活動を推進するなど、地域活動においては一定の役割を担い、「大田区青少年表彰」を団体・個人で受賞するなど、生徒の自信や社会性の向上に大きく寄与した。

オ 健康づくりにおいては、特別支援教育の理解に努め、共感的理解と受容的態度を基本とした生徒理解の充実を目指し、情報交換会や校内研修を定期的に開催してきた。特に「障害への理解を深め、支援が必要な生徒に対して教育支援委員会により組織的な対応を図った。

カ 募集・広報活動においては、生徒・教職員ともに地域活動へ参加し、ホームページの更新頻度を高め、中学生や保護者が本校についての理解を深められるよう可能な限りタイムリーな情報発信に努めた。

(2) 重点目標への取組と自己評価

エンカレッジスクールとして蓄積を踏まえて、本校の特色を明確にする取り組みとして、①一学年一部時間帯の30分授業、習熟度別授業、少人数授業等により、基礎・基本を定着させる。②学習内容や指導法を研究し、わかる授業を目指し、達成感・成就感を生徒に持たせる。③生活指導での「段階指導」に学校全体で取り組み、ルールを守る態度を育て、社会性と規範意識を育む。④体験学習・宿泊体験研修を充実させ、関係自治体・NPO法人・市民講師との連携を深め特色ある教育活動を堅持する。⑤外部機関との連携を深めながら学校教育相談体制を充実し、特別支援教育への理解を深めることで生徒

の特性に適切かつ組織的に対応する。⑥地域活動に積極的に参加し、地域に生徒が貢献する学校づくりを目指す。⑦勤労体験学習等を通して職業観や勤労観を育て、地域社会の一員であることの意識を高める。⑧学習活動、体験学習、部活動等の様々な機会を通して、各種検定資格の取得を推進する。⑨学校行事、ホームルーム活動、委員会活動、部活動等に積極的に取り組ませ、コミュニケーション能力を高めるとともに生徒に自信を持たせる。⑩心と体の健康づくりを推進することにより健全育成を図る取組を継続した。

生徒・保護者の視点から、学校評価結果に基づく数値上の改善点として、「授業の分かりやすさ」「きめ細かく手厚い学習指導」「授業規律と学習環境」「生徒の個性・適性に応じた進路指導」「学校行事」「美化・清掃等による学習環境整備」「面談週間の設定、1学年のみ二人担任制、養護教諭の二人体制など、心のケア」が挙げられる。

一方、改善を要する課題として、「進路指導における情報提供や進路ガイダンス等の充実」「進路未決定率を減らす取り組み」「生活指導における段階指導取り組み」が挙げられる。また、入試・募集活動全般の課題は学校運営の根幹にかかわることから、設置者と協議を進めていく。

#### ア 学習指導

- ・「授業の分かりやすさ」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒81.3%(前年度70.4%)・保護者86.3%(前年度83.7%)・教職員89.6%(前年度87.5%)】
- ・「きめ細かく手厚い学習指導」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒73.6%(前年度68.4%)・保護者80.1%(前年度75.5%)・教職員83.3%(前年度83.3%)】
- ・「授業規律と学習環境」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒58.4%(前年度53.5%)・保護者71.0%(前年度68.7%)・教職員56.3%(前年度55.3%)】

#### イ 進路指導

- ・「情報提供や進路ガイダンス等の充実」に対する肯定的意見 **課題**  
【生徒71.5%(前年度72.1%)・保護者70.1%(前年度71.4%)・教職員81.3%(前年度85.4%)】
- ・「生徒の個性・適性に応じた進路指導」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒68.0%(前年度66.8%)・保護者73.4%(前年度69.6%)・教職員83.3%(前年度83.3%)】
- ・「進路未決定率を減らす取り組み」に対する肯定的意見 **課題**  
【生徒68.9%(前年度65.9%)・保護者70.5%(前年度73.3%)・教職員75.0%(前年度89.6%)】

#### ウ 生活指導・特別活動・部活動

- ・「段階指導取り組み」に対する肯定的意見 **課題**  
【生徒60.9%(前年度63.3%)・保護者77.6%(前年度77.7%)・教職員79.2%(前年度70.8%)】
- ・「学校生活」に対する肯定的意見  
【生徒63.5%(前年度62.4%)・保護者75.9%(前年度75.3%)・教職員72.9%(前年度72.9%)】
- ・「学校行事」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒72.5%(前年度68.6%)・保護者83.8%(前年度82.1%)・教職員83.0%(前年度85.4%)】

#### エ 美化・健康づくり

- ・「美化・清掃等による学習環境整備」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒66.1%(前年度60.8%)・保護者82.2%(前年度79.9%)・教職員72.3%(前年度79.2%)】
- ・「面談週間の設定、1学年のみ二人担任制、養護教諭の二人体制など、心のケア」に対する肯定的意見 **改善**  
【生徒69.3%(前年度65.0%)・保護者78.8%(前年度76.7%)・教職員77.1%(前年度78.7%)】

#### オ 入試・募集・広報活動・学校生活に対する満足感

- ・入学者選抜応募倍率（推薦） **課題**  
【男子1.50倍（前年度1.77倍）・女子1.29倍（前年度1.86倍）】
- ・入学者選抜応募倍率（分割前期※） **課題**  
【男子0.88倍（前年度1.49倍）・女子0.63倍（前年度1.42倍）】

※平成31年度入試において募集人員の拡大を行った。

- ・入学者選抜応募倍率（分割後期※） **課題**  
【0.13倍（前年度0.45倍）】  
※平成31年度入試において募集人員の縮小を行った。
- ・東京都中学校校長会進学対策委員会の志望倍率 **課題**  
【男子0.87倍（前年度1.32倍・女子0.61倍（前年度1.14倍））】
- ・学校見学会、学校説明会、個別相談会の自校実施 **改善**  
【13回（前年度11回）】
- ・転退学者率 **改善**  
【7.8%（前年度9.5%）】（平成31年度退学者5.1%、転学者2.7%）
- ・進路決定率 **改善**  
【96.0%】（平成31年度進学準備者17.2%、未定者3.9%）  
※進学準備者を進路決定者に含めない場合、82.8%（前年度75.0%）

## 2 翌年度以降の課題と改善策

### (1) 学習指導

平成29年度より、基本的な生活習慣の確立、学び直しの機会による基礎学力の向上を目指し、全学年において「朝学習」（学校設定教科・科目「社会教養」）に取り組んでいる。31年度は実施後3年となることから、「朝学習」の意義と効果について検証し、今後の在り方を多角的に検討していく。また、学びの地図として、各教科・科目の連携性を持たせるため、年間学習指導計画に付加する「カリキュラムマップ」を段階的に作成し、カリキュラム・マネジメントの視点から学習成果の可視化に努めていく。

### (2) 進路指導

3学年生徒の進路決定率は78.8%である。内訳は、四年制大学17.9%、短期大学2.0%、専門学校29.1%、就職29.8%、進学準備15.9%、未定5.3%であった。近年、進路状況が多様化し、四年制大学では、入学定員の厳格化がなされ中堅校の志願者が軒並み上昇し、今年度以降の高等学校入学生が対象となる大学入試における新テスト、英語の四技能測定など、厳しい状況が予想される。そのために、推薦制度の有効的活用を図るためにも、入学時から卒業時に至るまでのキャリア教育を体系化し、コミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力等の意図的・計画的な育成に努めていく。

### (3) 生活指導・学校生活

#### ア 学校行事

新入生は入学後、甲信越地方に「民泊宿泊体験研修」として2泊3日の民泊を行ってきた。しかしながら、民泊は少人数単位の行動となるため、学級の親睦を深める上では課題も生じたため、次年度は「民泊宿泊体験研修」に代えて「遠足」を実施し、学級の親睦を深め、帰属意識を高める取組を試行し、学校生活満足度の一層の向上に努める。また、2学年の「民泊宿泊体験研修」（3泊4日）は「宿泊体験研修（修学旅行に準ずるもの）」と位置付ける。近年、食の安全や管理体制など民泊実施上の課題も指摘されており、民泊は2泊までとし、実施内容の改善に努めていく。

#### イ 部活動

運動系部活動15部、文化系部活動8部、同好会3部を設置している。部活動加入率と活動状況は低迷している。生徒の部活動に対するニーズや指導者配置上の諸課題もあり、決して充実した取組になってはいない。今後も指導力のある教員の配置や外部指導員の予算配当について、都教育委員会との折衝を進めていく。

### (4) 組織体制

学校経営課題に対する指揮系統を明確にし、迅速かつ組織的な対応を図るため、平成32年度より、新たな校務分掌を設置する方向で調整を図る。教員の働き方改革の視点を踏まえ、校内組織体制と業務の見直しに努めていく。